

太工 同窓会報

第23号

平成6年11月2日
群馬県立
太田工業高等学校
同窓会
0276(45)4742

同窓会員の皆様へ

副会長 木村 清一

同窓会員の皆様方におかれましては、日々お元気でご活躍の事と推察申し上げます。

最近まで、新聞やテレビを賑わした、記録的な今年の猛暑も、季節の移り変わりと共に幾分か、凌ぎやすくなり、そこかしこに秋の気配を感じる今日この頃です。

さて、昨年の常任幹事会で本部署員の定数増が可決され、関新会長のもと、新役員2名を迎え、新体制でスタートして、はや1年が過ぎ、昨年の常任理事会の席上で本部に対する要望事項が、4項目に渡り指摘されましたが、世の中の意識の変化や仕事、家庭に追われて、卒業して時間が経過すればする程、恩師や母校のことを思い出す機会が益々少なくなっているのではないのでしょうか。

こうした中、昭和42年に創刊されて以来、20年以上も発行され続

けられてきた同窓会報を絶やすことなく継続していくことが、母校と同窓生のパイプ役的な役割を果たす上で、大切なことではないでしょうか。よく継続は力なりといわれますが、これらの地道な活動を続けることにより、活動の層や幅を増して行かなければなりません。微力ではありますが頑張っていく所存です。

また、母校も開校以来30年以上が経過し、延べ8000人以上の卒業生を社会に送り出している伝統ある学校になっております。

あの懐かしい、三角屋根の体育館はありますが、そこかしこに三角形を取り入れた立派な校舎や実験設備の充実した実習棟など、機会があれば、是非、立ち寄り頂ければと思います。

最後になりましたが、会員の皆様におかれましては、公私共にご活躍のことと存じますが、健康に十分に留意され、より一層のご活躍を願ひ、会報がお手元に届きましたら、是非、ご一読を頂き、母

校のことを思い出して頂ければと思います。

挨拶

学校長 若林 勝利

同窓会会員の皆様には、平素から本校の充実・発展のために御支援・御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

この度の平成五年度末人事異動により、群馬県教育委員会事務局高校教育課人事主監より本校第十二代校長を拝命いたしました。曾我亮二前校長先生同様よろしくお願い申し上げます。

昭和四十年三月に三百二名の第一回卒業生を輩出して以来、本校も今年三月の卒業生で三十回生を数え、本年度末の卒業生で、本会員もついに八千名を超えることになりました。わが国の高度経済成長とともに歩んできた本校の歴史と伝統を再確認しながら、これからの新しい時代を生き、二十一世紀を担っていく有為な人材の育成に努めていきたいと考えております。

さて、本県高校教育も生徒数の急減期を迎え、転換期にさしかかっています。県教育委員会において、これからの高校教育のあ

り方を諮問するため、後期中等教育審議委員会を昨年設置しましたが、その中間報告が去る九月十六日に発表されました。それによりますと、いくつかの大きな改革に取り組む模様であります。

高校入試では、一昨年から中学校において業者テストを利用しない受験指導が行われています。また、来年度入試から専門学科の特色を出すために傾斜配点が導入されるようであります。さらに、東部第一学区では、今年度から職業高校の一日体験学習に加えて、普通高校においても一定の期日に入試説明会を実施するようになりました。八月五日に実施した本校の一日体験学習には五百名を超える中学生が参加しましたが、一人でも多くの生徒が本校を志望してくれることを願っています。

平成八年度には、環境学科や総合学科が新たに設置されるようであります。総合学科は普通科・商業科・工業科などが一つの高校内に設置されるので、もしそのような学校が東部第一学区に設置された場合、本校にも少なからず影響があると思われま

す。ともあれ、私達職員は一九七九年から本校の発展に努力する所存でありますので、会員各位には引き

続き御支援・御協力をお願い申し上げます。

機械科の現況報告

機械科 久保田耕一郎

昨年の冷夏・今年の猛暑、そして長引く不況・円高と自然界も経済界も厳しい昨今ですが同窓会員の皆様お元気ですか。私も企業で第一次・二次オイルショックや円高不況を経験しましたが、今回はもつと大変な状況に見えます。それは企業からの求人数が激減したことでも感じ取れます。しかし、この逆境の中でこそたくましく巣立って欲しいと願いつつ、指導にも一段と力を入れていきます。

さて、機械科の現況について少し述べます。生徒数は3年57人、2年76人、1年81人、教員12人です。機械科の生徒は総じて純朴で素直ですが、やや元気がないかなと感じます。これからは何事にも力強く、たくましく切り開いて行ける行動力と勇気をもたせたいと思っています。

機械科の設備関係は移転後益々充実してまいりました。レーザー加工機(県内工業高校初)・ワイヤーカット放電加工機・マシンニングセンター・CNC旋盤・ロボッ

ト・CAD/CAM等々が設置されました。卒業時まで、これらの機械を使いこなして欲しいとの思いで、職員は指導に研修に余念のない毎日です。

また、教育が偏差値偏重から個性化・多様化重視へと動く中で、3年生では教科・科目の選択制や課題研究を導入し、生徒が自主的・主体的に興味関心のある分野の学習をできるように配慮しています。さらに、地元企業や研究機関等から講師を招く試みもはじまり、3年目を迎えました。平成4年度(板橋貴氏)と6年度(鈴木勝美氏)は本校機械科の先輩です。本年は11月の予定ですが、生徒は今から楽しみにしています。

話変わりますが、職業高校をPRする手段として、昨年より群馬県産業教育フェアが実施され、今年も11月12日、14日まで前橋で開催されます。機械科からはロボット競技大会に2台(昨年も2台製作)参加します。夏休み返上で頑張っている3年生もいます。なお、1台は10月末の全国大会(京都)にも参加します。ぜひとも応援して下さい。

最後に、これからも太田工業高校が益々発展するために、諸先輩方の暖かいご理解とご協力を賜り

ますようお願いし、本会の更なるご発展と皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

電気科の現況報告

電気科 山形正高

御存知のように太田工業高校は平成元年に内ヶ島の旧校舎より、現在の茂木の新校舎に全面移転しました。当時、私は平成元年度入学の電気科一年B組の担任として、旧校舎で入学式を行い、その後クラスの生徒を引率して新校舎まで歩いて来しました。まだ、校庭、駐輪場、駐車場等の地面は整備されておらず、不便な思いをいたしました。新校舎の教室でホームルームを行い、その模様を群馬テレビが撮影に来ており、夜のニュースか何かで流していたのを見た記憶があります。

校舎全面移転ということで、従来無いような新規設備が導入されました。電気科に於いては第一電算機室という部屋にパーソナルコンピュータPC-9801UX21(NEC製)を四十二台購入しました。生徒一人にコンピュータ

一台ということ、当時これだけの設備が充実した学校は他に余り無かったと思います。本校では平

成二年度より課題研究という授業が導入され、生徒が自主的にやりたいテーマを考え、生徒自信で計画立案し、それを遂行していくものです。今年で五年目に突入しましたが、過去には電気自動車の製作、風力発電、スピーカボックスの製作、ハンドロボットの製作、資格取得、水質調査等色々取組んできました。特に平成五年度から始まった第一回群馬県産業教育フェアにおいて、生徒研究発表部門で、本校生徒が発表した「ハンドロボットの製作」は優秀賞の栄誉に輝きました。また、生徒作品展示ではソーラ庭園灯を出展しました。

資格取得面では、第二種電気工事士を筆頭に、計算技術検定、AR(ラジオ音響)検定、アナログ第三種、危険物乙四類、情報技術検定、ワープロ検定等の取得を目指して頑張っています。

進路面では、生徒数の減少に伴い就職する生徒が電気科全体の六割ぐらゐまで落ち込んでいます。以前は就職が七割を越えていましたが、これも時代の流れでしょうか。

いずれにしても生徒が多様化している現在、我々教師側も旧態依然としてはその生徒に対応し

ていけません。多様化した生徒を受け入れられるだけの技量と度量がもてるよう日々努力していきたいと思います。

情報技術科の現況報告

情報技術科 桑谷 寿長

情報技術科は昭和六三年に新しく設置された学科です。平成六年三月に第四期生が卒業し、すでに二九二名が同窓会の仲間入りをしています。また現在三学年六年级に在籍する生徒は二二一名(うち女子一一名)で、全員が諸先輩方の後を継ぎ、元気に勉学にスポーツにと頑張っています。

情報技術科では近年のコンピュータの技術革新に対応できる人材を育てるため、ソフトウェアのみならずハードウェア教育にも力を入れていきます。実習設備も校舎移転時に最新鋭の設備が導入されました。主な設備を紹介すると、一人一台の実習が可能なコンピュータ室、コンピュータを使って設計をするCAD、腕の形をしたロボットのマーブマスタ、計算機の原理を実習する計算機要素実習装置、各種制御実習装置などです。これらの設備を使った実習の主なものには、ソフトウェア関係では

各種言語(BASIC、C、ASSEMBLER、COBOLなど)をはじめワープロ、図形プロセッサ、表計算ソフトなど、またハードウェア関係ではワンボードマイコンの製作、LED点灯回路の製作、ドライブレ回路の製作、またこれらをシステムの組み合わせたマイクログラウスの製作などがあり、多岐にわたっています。さらに、生徒が自主的にテーマを選択する課題研究も取り入れていきます。昨年度は課題研究で空き缶集めロボットを4台製作し、全県で開催された産業教育フェアのロボット大会で五位に入賞しました。今年度はサッカロボットを製作中です。

生徒の資格取得意欲も盛んで、計算技術検定、情報技術検定をはじめ、第二種電気工事士、危険物取扱者、ガス溶接などの資格に毎年多くの生徒が挑戦しています。またさらに高度な知識を修得するため大学、短大、専門学校に進学する生徒も年々増加する傾向にあります、今年は約八割の生徒が進学希望です。これからも同窓会の皆様のご支援をお願い致します。

工業化学科の現況について

工業化学科長 今成 孝男

創立以来一学年二学級編成で活動してきました。しかし県教育委員会の方針により、平成四年度より一学級減となり、平成六年度には、一学年から三年生まで全学年一学級となりました。

科の教員も六名となり大変寂しさを禁じえません。また教員の異動も激しいので、卒業生が来校して、科を尋ねてくれても、懐しい先生は既に他校に転動しているという状況です。ご迷惑をお掛けすることと思いますが、ご容赦を願います。

科の学習内容も最近の急速なコンピュータ関係を中心とする科学技術の進展に伴い、変化しています。

一例を挙げると「情報技術基礎」を導入し、一・二年生段階で「ワープロ」・「表計算」・「図形」・「基礎的なプログラミング」を学習するようにになりました。三年生のプラント実習ではコンピュータ制御を導入し、社会の要請にこたえるべく努力しています。また科独自の科目に固執せず、他科の科目も学習できるように選択制を導入してい

ます。それから課題研究の時間を設けて、生徒自身が研究テーマを設定できるようにしている。(実際はこれができる生徒はごく少数であるが)

このように工業化学科も時代の波をかぶり、学習の内容が大幅に変ってきています。大先輩諸兄には目を丸くされるようなことが多くと思います。

生徒の状況を見ると、科の教員も学校の方針に従いながらも、優秀な生徒を育てるべく、「各種資格取得」・「検定試験」・「学力向上」・「希望者には上級学校への進学が実るよう」さらに「生徒の服装・礼儀等の生活指導」等々懸命に努力しています。

しかし残念ながら、このような内部努力にもかかわらず、単に工業化学科という名称のみで世間的な評価は低いのは否めません。

先輩諸兄にお願いですが、化学工業は日本の基幹産業であることを知り合いの人々に、子供達に日常生活の中で話していただければ幸いです。

卒業生の皆様のご活躍を祈念申し上げます。

社会人になつて

第三〇期 J 渡邊 真紀

社会人になつて何ごとにも責任を持つというのを、今まで思つていた以上に教えられました。

半年近くたつ今も、毎日が勉強で覚えることも多く、まだ一人では何も出来ないけれど、今までとは違い一人の大人としてみられま

す。仕事をすることも、期限をきめられそれを終わらすために責任を持つて一生懸命がんばらなくてはなりません。

私は、社会にでて少しでも役に立つような勉強をしたいと思ひ太田工業に入りました。女子が少な

いという事で男子に交じつて三年間やつていけるのかとても心配でした。そのことで大変なことも多かつたけれども、楽しかつたこともたくさんありました。

よく、「高校時代のころが一番楽しかつた」と聞くことがあります。すが私も社会にでて初めてその気持ち

少しのことでも助けてもらえます。でも、いつかは言われた仕事をただやつていくのではなく、自分で出来る仕事を進んで探していけるようになりたいです。仕事をや

つている時は大変だけれど、やり終えた時はとてもうれしく思えます。これから、もっと大変なことも

友 達

第十六期 C 茂木 智

友達を持つということは、人生で、非常に大事なことです。

私は、小中高と学校をでて来ましたが、いつの時代も楽しい思い

での中には友達が出て来ます。中でも高校時代というのは本

当に思い出深いものです。だいたいの人に、「いつの時代が、面白かつた」と、聞くと、

「高校時代かな」と言います。なぜに高校時代が面白いのか、それは、同じレベルの人間が、高

校にはあつまつて来るからだ、と、私は思います。今は、結婚して、子供もでき、

工業時代の、友人とも会えませんが、そろそろ、忘年会のシーズン、この場をかりてすみませんが、中

娘が二人おります。同窓会報への寄稿はこれが二度目でありま

島、豊田、小林、遠藤、斉藤浩そして茂木信、あつまつて笑いまくりましよう。日時は、12月の10日

前後で。話しがよこにそれともうし訳ございませ

な事だと今、本当にそう思ます。三洋電機に入社して、今思う事は、同窓生、天ヶ谷大先輩を筆頭

に、荒木、青田、関口、対比地、小林先輩諸兄にかこまれ、楽しい

職場ではたらかせてもらい、本場に、ありがたく思っています。

また、ぜひ、「赤城、榛名の山そびへ」と、心を一つにして、歌

う機会を、もちましよう。まとまらない文章では、ありま

したが、これからも友人達を、大切に、大事にしてゆきたいと思

ます。

「デンチュウ」なんて聞いた事も、見た事もなかつたし、確か学校でも

雑 録

第九期 E 天笠 裕 正

早いもので、卒業して二十一年になり、私も今年四十才になりました。結婚したのが遅かつたので

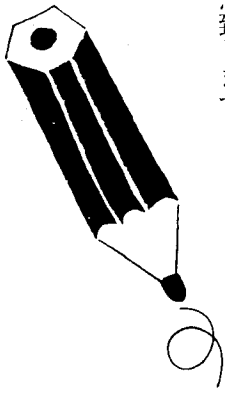
子供もまだ小さく、五才と三才の

仕事を始めて見ると、電鑄がメ

ツキの延長線上に有る事、メツキは剥れない事が大切だが、電鑄は

それとは反対に母材から剥れる様に

もわかって来ました。でも、もっと勉強しなくてはと思い、本を探しましたが、メッキ関係の本ばかりで、やっと電鑄の本を見つけた事も有りました。また、学校では化学はあまり好きではなかったのですが、仕事上、液管理や分析などを行うため、どうしても化学の知識が必要となり、勉強しなくては、と思うのですが、なにせ苦手な事でなかなか進みませんでした。でも、わからない事が有った時、そのままにしないで、なぜ、どうして、と調べて行ってその事が、ああそうか、こう言う事だったのか、と分かって来ると次第に面白くなって来て、仕事にも意欲が出て、楽しくなって来るものです。



どうせ同じ仕事をするなら、色々な事に好奇心を持って、楽しくやろうではありませんか。脈絡の無い文となりましたが、最後に会員皆様の健康と、太田工業高校が益々発展されます事を祈念致します。

夏のゴルフは、高原に限る

第五期C J.A太田市
岡部 茂

今年の夏は、各地で記録をぬり替える、猛暑とそれに準じての水不足に悩まされ、特に西日本の各地では農作物、漁業等に相当の被害を受けたようです。

幸い、水稲作付の農家にとつては、一部地域を除き大豊作のようでホツとしております。

そんな猛暑の中私は、八月三日、四日と二日間の日程で嬌恋村にあります、嬌恋高原ゴルフ場で爽やかな高原のリゾートゴルフを楽しんできました。

このゴルフ場は、本白根山麓のゆるやかな高原に広がり海拔一、一〇〇メートルという高さに位置しており、距離の短い浅間コース(六、一八四ヤードパー71)と距離の長い白根コース(六、八一—ヤードパー72)の二コースがあります。

私は、仲間四人で八月三日仕事を終えてから太田を出発ホテルには八時頃の到着となりました。

部屋は、四人用でベッドが四つ縦に並べてあります。着替用のバッグを置くなりゴルフ談義に花を

咲かせ乾杯をし、十一時頃休みました。

夜が明けて、目覚めると、うっすらと朝霧がたち込めており、下界とは違って全く暑さを感じさせません。

ホテルをチェックアウトして、クラブハウスのレストランで朝食を済ませ、ゴルフ場へさっそうと向いました。

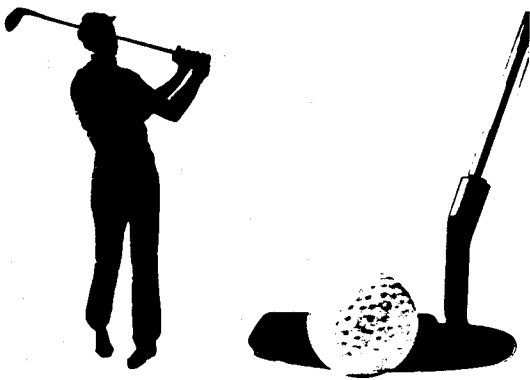
スタートコースは、白根コースのアウトの一番でした。距離は、三九七ヤードのパー4で左ドッグレッグのホールからです。順番を決めて、さあティアップです。第一打ドライバーがナイスショット、第二打七番アイアンで2オンです、グリーンでは2パットのパーで好発進でした、ハーフ終つてみれば44というスコアーでした。

ハーフの待時間が一時間以上ありましたので、レストランで生ビールをついつい三杯もいただいてしまいました。

後半のティオフとなりました。白根コースのイン10番ホール四一〇ヤード、パー4です。このホールは右に曲げたらまずパーは、とれない状況のホールです。

絶対に左から攻めようと思つていたんですが、ほろ酔かげんになつたせいか腰の開きが早く大スラ

イスでとなりのホールのラフへと、まあこんな感じで上がつてみると49というスコアーでした。一ラウンドが終了して時間がまだ早かったので「あとハーフやっていこうか？」ってことになりました。コースは、浅間コースのアウトのハーフを楽しみました。こは、43という私にとつては、いいスコアーであがつて来ました。ゴルフをやつていても汗ばまな爽やかな高原ゴルフ場つて夏のゴルフには最高ですね。



満足できる仕事

定時制五期 大桃 正広

定時制の同級生は、地方出身者が多い為なかなか合う機会がなかったのですが、今年の五月、有志十二名で同級会を行い近況を報告し二十数名前の想い出を話し合いとても楽しい時をすごしてきました。皆一人々が社会の第一線で活躍していました。

定時制の場合機械科だけですから私も鉄工か機械の仕事をつづけてやればよかったです。ところが、鉄工や機械の仕事で独立するのが困難と思い卒業する前に電気関係の仕事に転職して昭和六十年制御盤製造、機械電気配線工事、の仕事で(ダイセイ商会)として独立し現在に至っています。

経済不況といわれています現在、我々末端で仕事をする者にとって大変な状況ですが、私の場合は幸いとして農業関係の仕事(園芸設備・ライスセンター設備)が順調なので助かっています。園芸設備とは、数百坪のビニールハウスに数分間に自動で水と液肥料を花にくれてしまう設備で(K社製)この電子制御、工事を全て行っています。農業に従事する若い人が

いない、後継者がいないといわれていますが、園芸農家は自動化、省力化、に力を入れていられるらしく若い人達が多く働いています。

私の仕事は休日少なく拘束時間ですが、ユーザーの考えているとおりに機械や設備が働きますと工事終了時は、充実感があります。



学校だより

職員異動

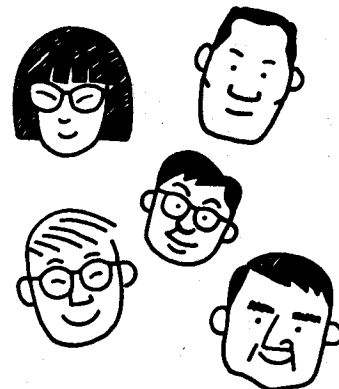
平成六年四月

曾我 亮二校長	高工へ
金井 恵三先生(機械)	前工へ
設楽 博美先生(数学)	桐工へ
斎藤 勝三先生(電気)	伊工へ
鈴木 久市先生(情技)	桐工へ
高野 勝弘先生(工化)	豊学校へ
七原 登先生(国語)	藤岡高へ
岡部 恵介先生(数学)	西邑楽高へ
藤井 通義先生(事務)	前女高へ
高田 治先生(情技)	館商工へ
酒井 淳史先生(国語)	渋西高へ
三木 敏聖先生(理科)	館高へ
若林 勝利校長	高校教育課より
斎藤 隆先生(電気)	伊工より
久保田耕一郎先生(機械)	館商工より
茂木 文男先生(理科)	桐南高より
樺澤 俊彦先生(数学)	大泉高より
櫻井 敏弘先生(情技)	桐工より
正田 悦朗先生(情技)	伊工より
岡田 憲明先生(数学)	桐高より
服部 好男先生(事務)	館高より
富田美亀江先生(国語)	地公臨
小玉 英子先生(数学)	非常勤
坂本 範行先生(情技)	兼務

次の先生方は新任の先生です。

次の方が退職されました。
今尾 隆吉先生(社会) 非常勤

高坂 真人先生(国語) 非常勤
鏡 澄夫先生(国語) 非常勤



訃報

栗原紘一郎先生(保体)が七月七日ご逝去されました。享年53歳。ここに、慎んでおくやみ申し上げます。

編集後記

常日頃より同窓会に対し、御理解と御協力を頂きありがとうございます。御座ります。会員の皆様へ会報第二十三号をお届け致します。最近郵送費の値上げにより会報の郵送代が増えしております。地域や職場で支部を結成していただき、会報が手渡し出来れば幸いです。感じております。また、最後になりましたが原稿をお寄せ頂きました皆様方に紙面をお借りしてお礼申し上げます。今後共宜しく。(大関記)